

辻村：頭蓋以外の骨に関しては、データベース化はどうなっているのか。

石田（英）：頭蓋以外ではデータベース化はまだ行われていない。

前川：キシユの人骨などはとくに、計量的なデータが揃うと非常におもしろい。キシユは文献上セム系集団の結節点であり、中心だった。

石田（英）：年代、出土時のコンテキストが問題となるが、確かに興味深い。クーンらの研究がある。短頭化現象は比較的最近の現象。イランはやや早く前 2000 年ころか。

常木：セム、原エラムなどの言語集団、民族集団によって明らかな形質差が人骨に現れる見込みがあるか？

石田（英）：ニップールのもを基礎に、西から東への形質転換などがわかるかもしれない。

藤井：ウバイド標本にさかのぼって調べるとおもしろい。

石田（英）：南メソポタミアのウバイド標本はないが、できるだけ地域的広がりを念頭に考えたい。

藤井：セム的なものがどの時点で入ってくるのかが問題である。ビシュリの標本は存在しないのか。

石田（英）：今は存在しない。

松本：幼児と成人の関係はどうなっているのか？

石田（英）：はっきりしていない。成人になってきてから出てくる形質差で異なる形質集団とわかるのではないか。データベースの範囲を広げたいと思っている。